

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/第0044号  
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成19年12月25日

独断専行なれど偽装、捏造、一切なし・ひぐらし関係者が選んだ

# 今年の10大ニュース

選出方法・編集人の独断と偏見により、あらかじめノミネートされた十五項目を、これまた編集人があらかじめ依頼しておいた知人・友人八人が最も重大だと思つた出来事をひとつだけ選んで投票し、最高票数を獲得したニュースを第一位とした。続いて残つた十四項目の中から第二位を選び、同様の方法で第三位、第四位と選出していき、ひぐらし関係者が選んだ今年の十大ニュースは以下の通り決定した。

## 第一位 安倍首相突然の辞任



G HQに押し付けられた現行憲法を頂点とする行政システムや教育、経済、安全保障などの枠組みを大胆に見直し「戦後レジームからの脱却」を目指した若い宰相は志半ばで、その職を辞することとなった。

就任直後は高い支持率を誇っていたが、日が経つにつれて、下降線を辿るばかりであった。そんな

中で、長い間内閣で格下であった防衛庁を防衛省に格上げした事やG HQの置き土産であった教育基本法とその関連法の改正、小泉前首相の辞任により、中途半端になつていた公務員制度改革の徹底などは、多少の瑕疵を除けば素直に評価されて然るべきである。

一方で、就任以来一度も靖国神社に御座す神々に額づき、感謝と哀悼の誠を捧げなかつたことが、日本の保守層を落胆させたのは否めない事実である。総理とは立場の違いがあるとはいえ、官房長官時代には「次の総理も、その次の総理も靖国神社に参拝する人が望ましい」と言つていたにも拘らず、首相自身がそれまで毎年続けて来た参拝を取り止めてしまったことは痛恨の極みである。

安倍首相の突然の辞任にはさまざまな理由が取りざたされている。直接の原因は巷間言われている体調の悪化ということかも知れないが、その誘因となつたのは参院選の大敗ではなからうか。であるならば、その責任の全てを安倍首相に負わせるのは筋違いといえる。

何故ならば、参院選の大敗は安倍内閣の非というよりも、歴代内閣の負の遺産を安倍政権が全て背負わされてしまったからである。

年金問題、政治とカネの問題とそれに絡む閣僚の失態、これら全てを利用して、本来ならば争点にしなければならぬ憲法、教育、安全保障を蔑ろにした報道を繰り返して、参院選の投票行動を操作し

たマスコミは無責任極まりない。平成十九年九月十二日午後二時安倍首相は、記者会見で突然の辞意を表明した。「美しい国・日本」と「戦後レジームからの脱却」が儼くも消えた瞬間だった。

## 第二位 相次ぐ食品偽装

不二家が消費期限切れの牛乳をシュークリームを製造する時に使っていた、との内部告発を受けた報道機関により、本年一月その事実が公になった。

連日の報道の中で新たな不祥事が発覚していくが、報道内容には誤解や捏造が含まれており、不二家とその関係者は多大な報道被害を被つた。捏造を駆使して激しく不二家を罵倒したのはTBSの情報番組「みのもんだの朝スパツ」である。



不二家とは無関係で、自称・元従業員と称する番組が雇用した者

の話を実裏であると捏造して、「こんな企業はいらぬ、廃業してもらいたい。のうのうとしていること自体おかしい、消費者をなめるんじゃない」と、口汚く罵っておきながら「やらせ」が判明しても、みからの謝罪は一切無し、それどころか言い訳に終始し、番組の正当化を主張するばかりであった。確かに不二家の犯したことは許されざるものであるが、TBSやみのもんだこそ糾弾しなければならぬ相手である。

不二家の偽装が明るみになるや次から次へと食品偽装が判明した。ミートホープ、白い恋人、赤福、比内鶏、船場吉兆、エトセトラである。「赤貧洗つが如し」の編集人には船場吉兆は高嶺の花だが、今年になって白い恋人も赤福も比内地鶏も食したことがある。こうなると何を信じていいのか分からない。霞でも食つて生きていくしかないのだろうか、メタボな編集人にはそれも結構な事だと歓迎する。

### 第三位

#### 消えた年金問題

年金問題は、今年最も話題になった問題のひとつであり、本来争点としなければならぬ憲法や国防を押しつけて、参院選挙の最大の争点となり、その勝敗を決し、安倍総理を



退陣に追い込み、今また舛添厚労相や福田首相のアキレス腱に なっている。

平成九年一月一日、新たに「基礎年金番号制」が導入され、国民年金や厚生年金の加入記録の統合作業、いわゆる「名寄せ」が開始した。この作業は就職や転職、結婚など個人のライフステージが変化するたびに、別々の年金番号を与えていた状況を改善し、給付等の手続をスムーズに行なうことを目的としたものであった。しかし、基礎年金番号を統一する時に行なつた「名寄せ」の際に、名前の読み方を間違えて入力したり、生年月日が抜けていて統合ができなかつたケースが五千万件も発生した。これが所謂「宙に浮いた年金」である。

では何故このような事態になつたのか突き詰めていくと、そこには労働組合、すなわち自治体の姿が浮かび上がってくる。自分たちの仕事量を増やさないためにアルバイトを雇い、重要な作業をアルバイトにやらせ

休憩をとる。パソコンを操作する時に使う個人カードは、誰がどれだけ働いたか分かつてしまし、労働強化に繋がるから使わない。等々言いたい放題、やりたい放題の傍若無人振りである。これらは自治労が圧力を掛けて、社会保険庁と交わした百近くある「覚書」のほんの一部である。そして、それを後押ししたのが旧社民党つまり民主党である。民主党は政府と党を批判するが、自治労とズブズブの関係だ。こんな党に「消えた年金問題」の解決も「社保庁改革」もできるはずがない。

### 第四位

#### 防衛省汚職事件



事務次官として防衛省に君臨した守屋武昌は、防衛・軍需の専門商社山田洋行の専務宮崎元伸から、度重なるゴルフ接待を受けていた。また妻幸子の銀行口座に米国経由で現金を振り込ませ、その金を娘の留学費用や消費者金融から金を借りていた

長男の借金返済、妻の遊興費に充てていたというから言語道断である。守屋の逮捕を受けて、今後の

世論の動向を鑑みる時、日本の防衛の危機を感じる。このようにな不祥事が生じると、防衛に関する事柄は負の先入観が作用し、疑惑の目で見られるようになり、防衛予算は削減され続けることとなるだろう。

支那、南北朝鮮、ロシア、周囲を反日国家に囲まれた我が国の防衛は困難を極める。そのうえ予算削減となれば、反日国家の思う壺である。

守屋のしでかしたことは、防衛省の信用を失墜させ、自衛隊員の士気を削いだという点で、その罪は万死に値する。汚職は汚職として処罰することは言うまでもないが、このような不祥事が基で、自衛隊が本来の任務を遂行する機構作りさえ不可能になるとしたら本末転倒である。

### 第五位

#### 福田内閣発足



安倍首相の突然の辞任を受けて、行なわれた自民党総裁イコール内閣総理大臣選びは、幹事長であった麻生太郎の孤軍奮闘にも拘らず、福田康夫が第二十二代総裁に選出された。これに

よって福田は第九十一代内閣総理大臣となり、希に見る媚支那政権が誕生したのである。

参院選大敗によるねじれ国会の下、テロ特措法どころか一般の法案を通す事さえままならない異常事態になす術がない福田。一方で民主党執行部は次期衆院選で政権奪取を目論むが、一抹の不安を抱く党首の小沢一郎。上州のポン助と奥州の解体屋の思惑が合致し、両者は大連立を画策したが、党内の事情により一頓挫した。両者の心頭にあつたのは党利党略であり国家や国民の利益ではない。国民が望むことは、平成の大政翼賛会ではなく、真の政界再編である。

- 第六位・新潟県中越沖地震
- 第七位・参院選自民大敗
- 第八位・相撲界の不祥事
- 第九位・亀田一家の騒動
- 第十位・松岡農水相自殺



年末恒例の全国公募による一年の世相を表す漢字は「偽」に決定した。さまざまな分野で「偽」が発覚した。「偽」から「真」となるのはいつの日のことだろう。皆様お揃いで良いお年をお迎えください。 編集人・戸出蒼流